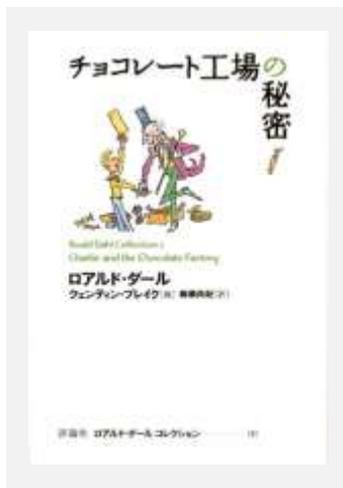


令和4年冬 子ども図書館おすすめ本

★中高生におすすめの本★

★『ロアルド・ダールコレクション2 チョコレート工場の秘密』

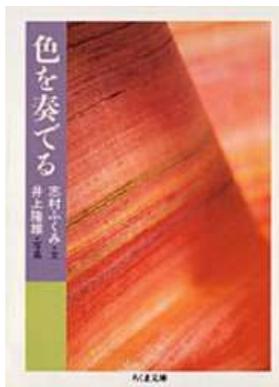
ロアルド・ダール/著 クエンティン・ブレイク/絵 柳瀬尚樹/訳
評論社



少年チャーリーは、七人家族で^{まず}貧しい生活を送っていた。彼の楽しみは誕生日に買ってもらえる小さな板チョコだけ。そんな誕生日が近付いてきたある日の新聞に、謎めいた世界一のチョコレート工場を持つ、ワンカ氏主催の工場見学のお知らせが載^のった。招待されるのは児童五名。その招待券は、全世界のワンカの板チョコの包み紙の中に入っている黄金の切符。チャーリーも誕生日の板チョコへ少なからず期待を寄せるが……。

★『色を奏でる』

志村ふくみ/著 井上隆雄/写真 ちくま文庫



四季折々の植物から様々な色を染める、染色家・志村ふくみのエッセイ集。花の咲く直前の頃の木の皮から染めた、匂い立つような桜色。藍の最後のふと消えてしまいそうな、それでいて存在感をもつ^{かめ}甕のぞき色…。様々な色にまつわる染色家ならではのエピソードが満載です。植物と色の深い^{つな}繋がりを感じさせる、鮮やかな写真も魅力的です。

★『カレーライス 教室で出会った重松清』

重松清/著 新潮社文庫



少年の成長を描く表題作「カレーライス」。ゲームは一日 30 分という約束を破ってしまったぼく・ひろしは、毎月母親が仕事で忙^{いそが}しくなる一週間で父親と過ごす、お父さんウィークを前に父親に叱られてしまう。自分ばかりが悪いとは思えず、ごめんなさいとも言えないままに、ついにその週に突入してしまうが——。「カレーライス」「あいつの年賀状」「もうひとつのゲルマ」など、教科書に掲載^{けいさい}された事のある全九編を収録した重松清の短編集。

